

男女共同参画センターだより

令和6年度高槻市男女共同参画フォーラムを開催しました

令和7年2月10日、高槻市と男女共同参画センター登録団体有志が企画・運営した「令和6年度男女共同参画フォーラム」を開催しました。今回は大人気のNHK朝ドラ『虎に翼』の制作統括の尾崎裕和さんを講師にお招きし、ドラマに込めた想いや制作にまつわる話をお聞きしたほか、事前に参加者からいただいた質問をもとに、進行役の小川眞知子さんとの対談形式で質疑応答を行いました。

『はて?』からはじまるジェンダー平等

～女性法律家の道はどう開かれたか～

第1部 講演

「平等、差別されないということがどういうことか、ドラマの中で問いかけていきたかった」——『虎に翼』にかける想いを語った尾崎さん。日本初の女性弁護士で、のちに裁判官となった女性が困難な時代に道なき道を切り開く奮闘を描いたストーリーが誕生した企画書を紹介してくれました。

尾崎さんが印象に残っている人物は、主人公の同級生「花岡さん」。「優三さんは素直に好意を表現できる人だけれど、花岡さんは女性を差別するつもりはないのに、なにか違うことを言うってしまう人。情けなさやもどかしさをひっくるめて、共感できる人物像でした」と話しました。

また、ドラマのモデルである三淵嘉子さん本人の貴重な肉声ラジオインタビューでは、「（日本国憲法が制定され、）今まで男性と対等な議論ができなかった。これからは言いたいことが言える！ 女性のためだけじゃない」と三淵さんが明るい声で情熱的に語られました。「はて?」と疑問を呈し、不安や理不尽と衝突しながら、着実に前に進んだ時代の息吹を感じました。



講師 尾崎 裕和さん
(NHK連続テレビ小説『虎に翼』制作統括)

第2部 対談形式による質疑応答

ドラマの中で舞台となった弁護士事務所の壁に書かれた憲法14条を背景に行われた質疑応答。尾崎さんは「脚本家の吉田さんや制作スタッフと企画するなか、『法の下での平等』が全体のベーステーマだと感じた」と話しました。

また、ジェンダー平等のために自分ができることとして、尾崎さんは「ドラマの制作現場は時間が不規則で、女性が働き続けるには厳しい現状もありますが、男性・女性共に制作に関わることで多面的な良い作品ができます。『虎に翼』では企画段階から男女比が半々になるように努めました」と制作の様子などを話されました。

社会のアンフェアに疑問を呈しながら、ひるむことなく信念を持って生きぬいた主人公「寅子」に思いを馳せ、勇気と希望をもらった一日でした。



進行役 小川 眞知子さん
(NPO法人SEAN理事長)

参加者からの声

- ▶ 今も昔も“はて?”と思うこと、言えないことがあり、言えなくて困っている人もいます。けれど少しずつ、声をあげて進んできたことがある。これからも、そんな声に注目しないと、と思いました。
- ▶ 企画書を見せていただきましたが、放送では随分重厚な内容にされていて驚きました。また、三淵さんのお声を聞けて、リアルを感じました。

